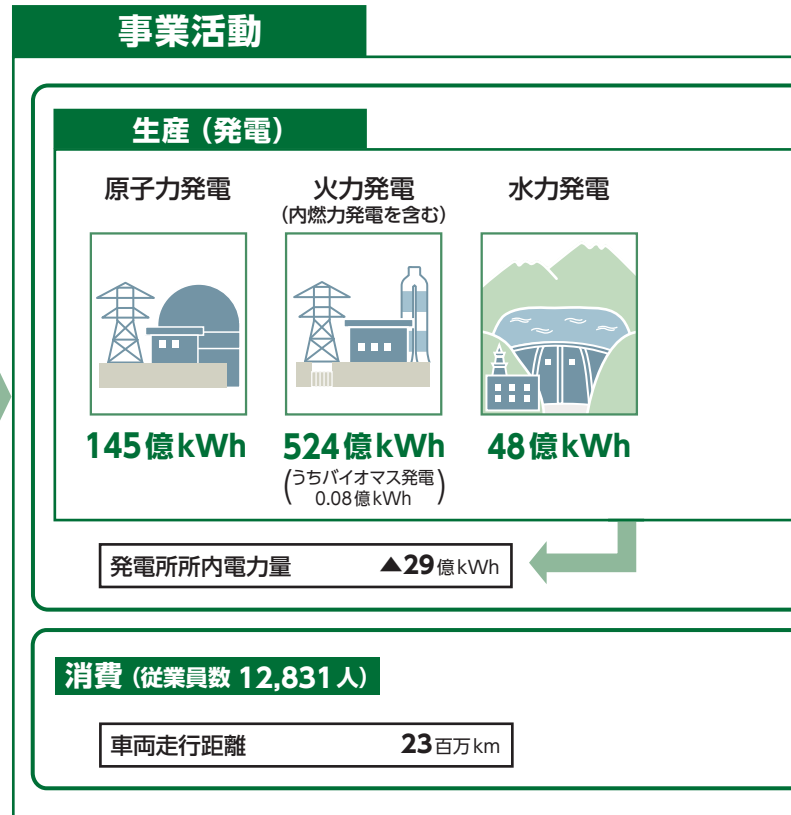
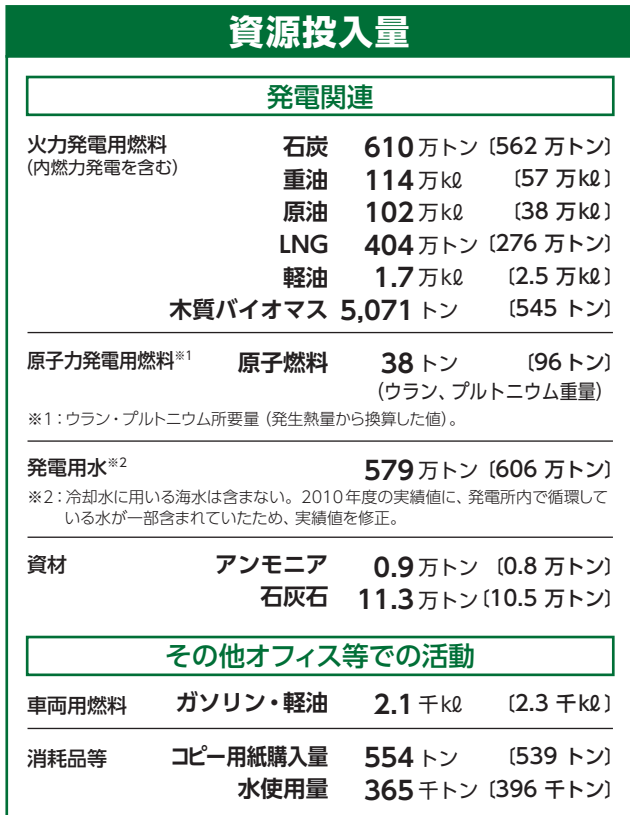


事業活動と環境負荷の状況

下図は、当社での資源や資材の投入から、生産(発電)及び購入、電力輸送を経てお客さまへ電気をお届けするまでの間に、どのくらいの資源、エネルギーを消費し、どのような環境負荷が発生しているのかについて表したものです。

今後も、この現状を踏まえ、更なる環境負荷低減に努めていきます。



(注) [] 内は2010年度の実績値。

【想定低減量の算出方法】

CO₂排出抑制量

- 発電・電力購入による低減量: 原子力による電力量は火力発電(石炭・LNG・石油)で、また、再生可能エネルギー(水力は揚水除く)による電力量は全電源(CO₂排出クレジット反映後)で賄ったと仮定した場合をベースラインとして算出。
- 設備の効率向上: 1990年度の熱効率や送配電ロス率をベースラインとして算出。

SF₆回収量

点検・撤去時に機器に充填されているSF₆の回収を行わなかった場合をベースラインとして算出。

省エネ設備対策によるCO₂排出抑制量

事業所において、省エネ設備対策を行わなかった場合をベースラインとして算出。

社用車への低公害車導入によるCO₂排出抑制量

電気自動車(プラグインハイブリッド車を含む)、ハイブリッド車及び低燃費車の導入を行わなかった場合をベースラインとして算出。

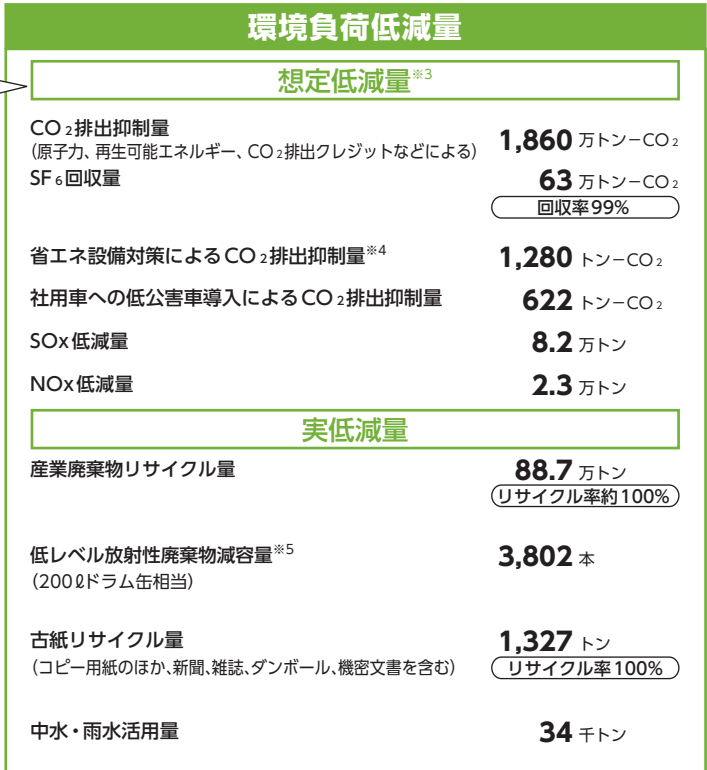
SOx低減量

発電所において、脱硫処理や低硫黄燃料の使用を行わなかった場合をベースラインとして算出。

NOx低減量


発電所において、脱硝処理を行わなかった場合をベースラインとして算出。

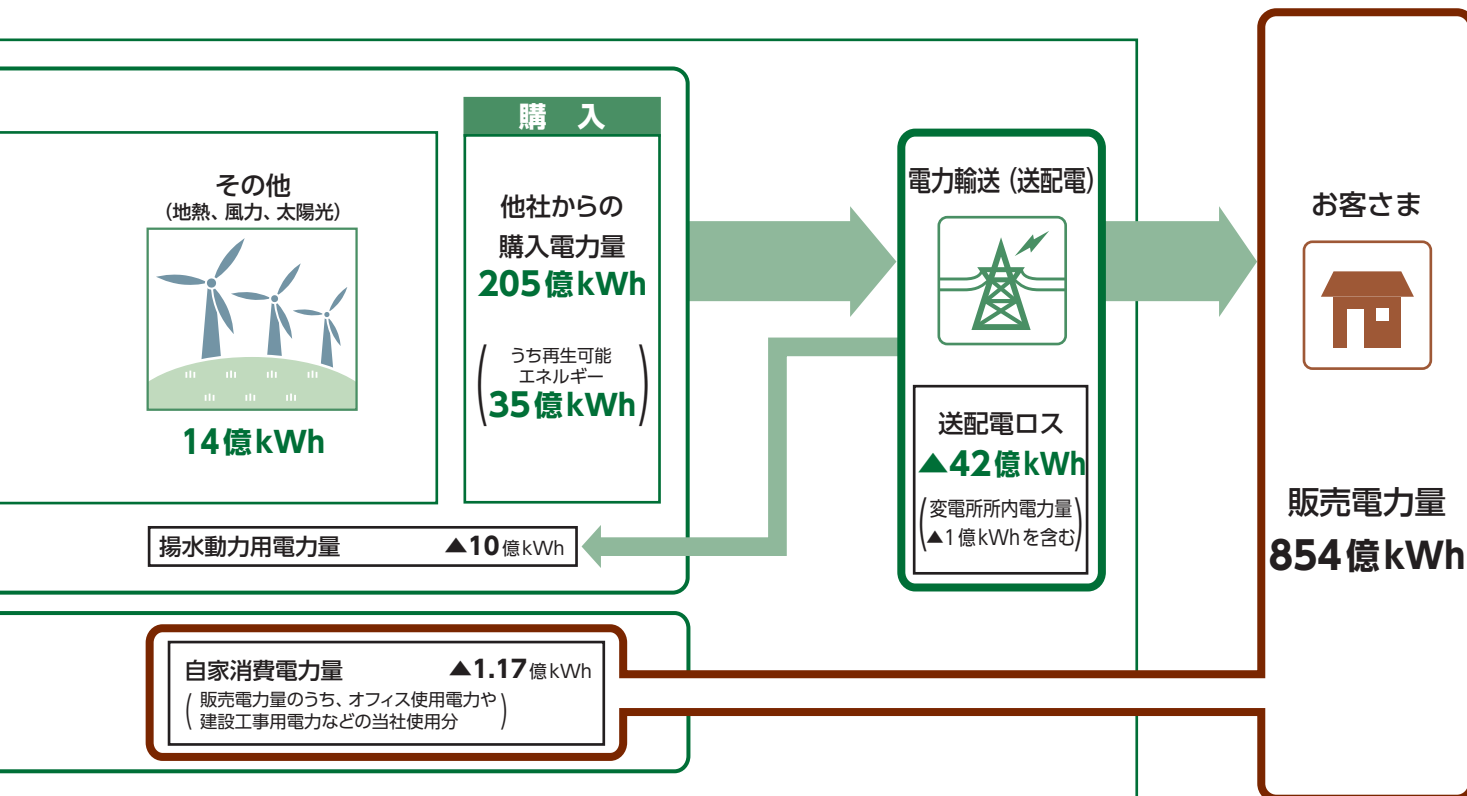
*3: 事業活動において、環境負荷低減対策を実施しない場合等の環境負荷レベルをベースラインと想定し、実際の環境負荷レベルとの差により算出した値。
*4: 「2011年度の当社販売電力量あたりのCO₂排出量(CO₂排出クレジット反映後)」を使用し算出した値。



用語集を
ご覧ください

- LNG (液化天然ガス)
- プルトニウム
- 再生可能エネルギー
- 送配電ロス(率)
- 低燃費車
- 中水
- アンモニア
- SF₆(六フッ化硫黄)
- SOx(硫黄酸化物)
- 産業廃棄物
- 木質バイオマス
- 石灰石
- 揚水(発電)
- 脱硫処理
- リサイクル率
- 原子燃料
- バイオマス
- CO₂排出クレジット
- 電気自動車
- 低硫黄燃料
- 低レベル
- ウラン
- 所内電力(量)
- 熱効率
- プラグインハイブリッド車
- NOx(窒素酸化物)
- 放射性廃棄物

 : 第三者機関による審査を受審したデータ



(注) 電力量については、四捨五入のため合計値が合わないことがある。

環境負荷量

発電関連

温室効果ガス排出量	CO ₂ 4,300 万トン-CO ₂ (3,050 万トン-CO ₂) (・うち、自家消費電力分 5.9 万トン-CO ₂ ※4) (・他社購入電力量分を含む)
	SF ₆ 4.7 万トン-CO ₂ (3.6 万トン-CO ₂)
	N ₂ O 5.3 万トン-CO ₂ (5.1 万トン-CO ₂)
	HFC 0.06 万トン-CO ₂ (0.21 万トン-CO ₂)

オゾン層破壊物質排出量※6	0.04 ODPトン	(0.8 ODPトン)
---------------	------------	-------------

大気汚染物質排出量※7	SOx 2.2 万トン	(1.8 万トン)
	NOx 3.2 万トン	(2.6 万トン)

排水負荷量※8	96 トン	(92 トン)
COD排出量※9	5 トン	(6 トン)

産業廃棄物埋立処分量 (有効利用分の石灰灰を除く)	0.2 万トン	(0.2 万トン)
------------------------------	---------	-----------

低レベル放射性廃棄物発生量※10 (200ℓドラム缶相当)	3,669 本	(4,306 本)
----------------------------------	---------	-----------

その他オフィス等での活動

車両CO ₂ 排出量	0.5 万トン-CO ₂	(0.5 万トン-CO ₂)
古紙処分量	0 トン	(0 トン)
上水使用量	330 千トン	(368 千トン)

- ※5: 発生した低レベル放射性廃棄物を焼却や圧縮等の処理により減らした容積を、200ℓドラム缶の本数に換算した値。
- ※6: 各フロンのおゾン層破壊係数を用いて、CFC-11 重量相当に換算した値。
- ※7: 火力(内燃力含む)発電所ごとに「総排ガス量×排ガス中の濃度」を重量換算した値の合計値。
- ※8: 火力(地熱含む)・原子力発電所の排水処理装置で処理した排水に含まれる水質汚濁物質ごとに、濃度と排水量を用いて負荷量を算出し、それらに当社独自の重み付け係数を乗じてCOD(化学的酸素要求量)重量相当に換算したものの合計値。
- ※9: 火力(地熱含む)・原子力発電所において、排水処理装置で処理した排水に含まれるCOD(化学的酸素要求量)の合計値。
- ※10: 実際に発生した量から減容した量(※5)を差し引いた正味の発生量を、200ℓドラム缶の本数に換算した値。

(注) []内は2010年度の実績値。

用語集を
ご覧ください

- 自家消費電力
- オゾン層破壊物質
- 上水
- 水質汚濁
- 温室効果ガス
- 大気汚染
- フロン
- N₂O(一酸化二窒素)
- COD(化学的酸素要求量)
- オゾン層破壊係数
- HFC(ハイドロフルオロカーボン)
- 石灰灰
- CFC-11(トリクロロフルオロメタン)